

い今當にま度間に皆次期対なでし支び変案中たる役水て可議みに事す年川が会七
致後し「しも会期様年で面り可予に更の止。件員次第決の上対長る度理第執議月
しとてのた残致待の度は例ま算第に事にそが名年二さき結果が事長号行て特別ン
ま精がりしをご理御会した。の四関業伴の上簿度号され、補理議事長より、案
す。宜りで「分せられも変号す日うに程承理議それ程承認されまし
しま全逆た。躍、まし
くす力境と。無と役す
お。でをな本事事員が
願 運力り年に業の、時

すあつと少方し つた頭パン自ン！ウ共ツ！ ま例工をすがでるしでいあま かだ例工い
。れてをしあてこてのでタ例己、ブト同ドブ事し会サの会経る樂、こたの段るだ今 け会会ま
ばい知でと、のおできと会診Fデル作シで前たのル皆の営こしこと直開階こま年
嬉たつも樂青合りはるしと断Fイー、業IのL。準を模ジ究がなず直接がオコ合
しだ、おし工同Sスムブト流I備重複交をNをねしタ部でがべきを踏口同
いけ仲互く会例。い容がて才論カでレを、Nをねしタ部でがべきを踏口同
限た良い交さ会かにらはんにツのイ使スEしな、ル会きら両なあまラえナ例
りのくのしんをとでもバラよシグクつブグてがり委とる交団いわりイ、禍会
ででなこ、の通思き没タイるヨルアたレルきらハ員青か流体中せまん早では

七月例会研究部会を開催して
佐藤洋輔長で
でん七山加
しで月山
よい合梨下
うた同青さ

周にとコ同道さたと合思意としつとまやこたよツの行て通で向いまる参で側間し身の営Fうスい
りワ言ンじ修「一発うつ見したた。ですれ。うク事動いり。けいさ衝加しとをてのですU！にを七
もクうセ方正攻ひ想。たをて事し構ま以人一にが？るの今らっし撃したは取お仕するT
自ワコン向めらも私の聞も限はかつい上で人一予が？通のればくを私を言れり事がにUR
分クとサになめ出人一かき一れ全、てとの考で想出經常はいて今受けずなで私あR
自すがス向。守き来のまな人た例ら周問えて突外來驗運、いなのが雷、な運か四はたE
身るこさか一りな考でぜ一時真会れり題、いっでず済へ今る自いまが例い當な苦自つG
も事んせつつ心かえ話そ人間逆でなのをりま走パ全み慣まよ分つた落会立すか八分てをH
新でなるての軌強つだしうのだでやい事増、しるニてなれでうにば。ちに場る時苦自な運T
よサ互

七月例会に参加して
須方会翼

りと言い事を、まさしく
アラルタイムで
され例会で
なられるとしても考
いた。も考
ええた。



ざ十すこに大こが山い周と例事と今梨ま年青を会なで年青す。お会嬉を節半五年めののく催の紀周業と様思出年と年会う、い来にいとさご五また共うのん
た樂診思外い社速。だ大れろ「白論がの例オ
し断いなま内自F「な限てまさく」用不会
ま結も一しで社Fどにオでん、のい安とラ
せ果寄面た自己持理ましにS感生ン配がフ内
てがらをそ診ち論シがFり事で
頂出な知つたか断帰一たんしいテてFまにの
まりつたらをつを。例をてとしもSし多合
してた、意行て早会最くこタ面理たく同

七月例会に参加して
田口博也